

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和2年度第1回大分県立図書館協議会

2 開催日時

令和2年6月30日（火）13時30分から15時30分まで

3 開催場所

大分県立図書館 3階 特別会議室

4 出席者（10名中8名出席）

(1) 委員

古後委員長、佐藤副委員長、栗屋委員、淵委員、川原委員、富高委員、大塚委員、大西委員

(2) 事務局

宮迫館長、富賀見副館長、森山副館長兼学校・地域支援課長、
増本サービス課長、三代総務企画課長、佐田総務企画担当主幹 ほか

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

1名

7 議題及び結果

(1) 議題

(議事)

- ア 令和2年度事業計画について
- イ 2019年度事業実績について
- ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について
- エ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

(2) 結果

(議事)

- ア 事務局から報告 了承
- イ 事務局から報告 了承
- ウ 事務局から報告 了承
- エ 事務局から報告 了承

8 主な審議内容及び会議録の概要

(議事)

(1) 令和2年度事業計画について

図書館から資料1、資料2について説明。

○委員発言なし

(2) 2019年度事業実績について

図書館から資料3について説明。

○委員発言なし

(3) 大分県立図書館重点目標の達成状況について

図書館から資料4について説明。

○委員意見

国民文化祭（2018）の「50日間県立図書館三昧」の実施で、来館者が増えたと、以前、報告があった。国民文化祭をきっかけにどのようなプラス効果があったと感じているか。

県立図書館が、社会教育総合センターの機能を担うということは、とても大変なことをやっていると思う。しかし、今回の自己評価が「B」で、どうしてなのか。社会教育主事の派遣は目標回数より増えている。地域教育力パワーアップ事業が終了と記述されているが、これは、人育ての大事な人材育成、見守り人材の育成で、とても大事な事業と思う。そして、この地域教育力パワーアップ事業に代わるものが、今回の社会教育主事の派遣事業だと承知している。

昨年、地域教育力パワーアップ事業も参加人数が増えたと聞いていた。社会教育主事の派遣は、まだ全市町村に出来たわけではないかもしれないが、ここを自己評価「B」にされた特別な理由が何かあるのなら聞かせてほしい。

また、地域教育力パワーアップ事業は終わったが、続ける必要がある事業であれば、何かのかたちで継続できないのだろうか、今後の見通しについて少し詳しい説明がほしい。

●図書館回答

国民文化祭関連行事の実施で、2,000人近い方が来館、はじめて県立図書館に来た方々も、いと記憶している。

エントランスでの「お茶会」や、祖母傾山の文化遺産を広く紹介する意味で「宇目神楽」の講座なども実施した。当館では、継続的に公開講座を実施しており、国民文化祭のレガシーの一つとして、神楽のような、地域の古い文化というものをいかに紹介していくかという視点に立った講座の実施といった新たな展開ができたことが挙げられる。2019年度にも「庄内神楽」を実施し、120名を超える方の来場があった。

また、「映画の楽しみ方」など、いわゆる文化芸術的な面に公開講座の視点を少しシフトする取り組みでも、多くの来館者の方々からプラスなご意見をいただいた。

地域教育力パワーアップ事業は、社会教育関係の団体を支援することを目的として実施したが、当初から、3年という年限を決めて取り組んだ事業である。もちろん、そこで終わるべきものではなく、3年間、県がある程度、市町村の中で活動している団体のお手伝いをすることで、4年目、あるいは3年の事業期間中から、各市町村の方で、それらの団体を何らかのかたちでバックアップしてもらうことを想定した事業であった。このため、事業終了後、日出町の婦人会等は、今でも町長さんとお話の中で子ども食堂の運営をしている。それに町が財政的にも支援しているほか、公民館講座を拡充しているなど、各市町村で取組が続いている。

しかし、市町村の社会教育担当部門は、さまざまな地域課題の担当部局的になっており、なかなか人員が割けない実情があるため、市町村だけでは、十分に手が回らない場合に、県の社会教育主事が求めに応じて支援するというように、地域教育力パワーアップ事業のフォローアップを行うこととしたものである。令和元年度に初めて実施し、それなりには成果が出せたと考えている。担当者として「A」評価も考えられたが、やはり数字的が少し下回ったということで、少々謙虚な評価になった面もあると考えている。

○委員意見

この事業の指標は貸出数の総数だが、令和元年度は11ヶ月で2千200超であって、その前が2千100というような数字が出ている。このような書き方では、全体を見ると下がっているが、平均的に1カ月で言うと2千200で増えている。月平均で見れば増えているので、自己評価「A」にしても、悪くはないのかと思う。コロナ禍のなかで、3月は休館ですから仕方が

ないというような書き方は難しいだろうか。

●図書館回答

謙虚に評価したというところも、あると思う。

●図書館回答

ありがとうございます。コロナ禍のなか、おうち時間で、本に親しんでもらうのが我々の大きな課題と思っている。開館をして、来館をしてもらって貸すというのは、今までどおりですが、感染症対策を進めながら、知識の詰まった資料、本をいかに活用してもらうか、これから我々も考えなければいけない。そういう意味では、総数で評価していくものと思っている。電子図書の話もあったが、そういったものの利用も、ますます進むかもしれない。それであれば、来館をせずに、この県立図書館の資料を利用するというのをこれから考えていかないといけない。総数で評価というのは大ざっぱなところがあるが、我々としては、しっかり確認をしていきたい。

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

図書館から資料5について説明。

○委員発言なし

9 会議の資料名一覧

(1) 令和2年度第1回大分県立図書館協議会資料

(議事)

ア 令和2年度事業計画について

資料1 令和2年度 基本方針及び重点目標

資料2 令和2年度 事業計画

イ 2019年度事業実績について

資料3 2019年度 事業実績

ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について

資料4 大分県立図書館運営の状況に関する評価

エ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

資料5 新型コロナウイルス感染症対策に伴う対応について

10 問い合わせ先

担当課 大分県立図書館総務企画課

電話番号 097-546-9977